日本基督教団　関東教区

関東教区通信

No.152　　2018年7月29日

発行者　日本基督教団関東教区
総会議長　東野尚志
事務所　〒330-0844　さいたま市大宮区下町3－39
電話　048－647－0862
ファックス　048－647－0978
郵便振替　00140－3－67727
Eメール　kantou@church.email.ne.jp
URL　http://uccjkanto.holy.jp/index.htm

「子供のように神の国を受け入れる」とは

ルカによる福音書18章15-17節

水海道教会牧師　加藤　輝勢子（きせこ）

私は平日、児童館の館長をしています。牧師と同時に与えられた仕事です。児童館は0～18歳までの子どもと保護者が利用できます。児童館は小学生になって子ども（自分）の意志で自由に来られる児童施設です。土日も開館していて、閉館は祝日のみです。朝9時半から夜8時までです。学童クラブも併設しているので、土日は少し減りますが、1日平均300人以上、月1万人以上は利用しています。主に午前中は乳幼児親子、午後は小学生、夕方からは中高生が多いです。私のところは比較的大きな児童館で体育室や遊戯室、創作室、音楽スタジオ、ダンススタジオ等があります。

今日の聖書の箇所は、人々が乳飲み子までもイエスに触れていただくために近づいてきたところ、イエスの弟子たちにそれを止められました。マタイ書では、その弟子たちの姿にイエスは憤りを感じたと書かれています。弟子たちはイエスの身を案じて、疲れているだろうからと思ったのか、女、子どもがイエスの側に来ても役に立たないと思ったのか、いずれにしてもイエスの側に来るにはふさわしくないと判断したのでしょう。その光景を見て、イエスは「子供たちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく、子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」と言われました。私はイエスの言葉を子どものように無垢でなければと思っていました。イエスが語ったことは子どものように無垢な心でというよりは、世間で相手にもされない女、子どもや虐げられている人を受け入れる、その人たちが安心していられようなところが神の国だと言っているのではと思いました。

最近、子どもに関わるニュースを見ていて、心を痛めております。乳飲み子、幼子が事件に巻き込まれていることにやりきれない思いです。イエスの時代、子どもが大人まで成長できるのは5人のうち1人という過酷な状況でありました。現在も子どもにとっては安心していられない時代です。

児童館にもいろいろな子どもが来ます。学校や家でのことを引きずることもあります。楽しい時もむしゃくしゃする時があって気晴らしに来る子ども、口より先に手が出てしまう子ども、ヤンチャな子ども、コミュニケーションが下手な子ども。遊んでいていろいろなトラブルがあります。子どもたちの自立を大切にしながら、職員が子ども一人ひとりに丁寧に寄り添い、話を聞いています。自分たちで解決できることもあります。私は「困った子どもは困っている子ども」と思います。児童館は子どもたちがいっぱい遊び、いろいろな体験をして、安心していられる居場所になればと思っています。中学高校で荒れていた子どもが社会人になり、「あの時、児童館があったから、今の自分がある」と言われたことは私たちの励ましです。児童館の仕事は遊び相手と思われるかもしれませんが、大切にしていることは「遊育」です。遊びを通して人を育てる、遊びを通して心と体を動かすことと思っています。

「子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

私たちは自分たちに都合の良い人たちを教会に招くのではなく、困難の中にいる人、虐げられている人が来た時に妨げることなく共に歩むこと、そのことが神の国を受け入れることになるではないでしょうか。イエスは私たちを導いてくださいました。私たちもイエスの教えと共に歩みましょう。

教区総会参加者の声

新潟地区

新発田教会牧師　新保　能宏

重要な議事に先立ち、開会礼拝が行なわれ、途中、按手礼式・准允式が、また逝去者追悼礼拝が行なわれました。議事の切れ目には、必ず祈りがささげられました。神の御前に集い、神の御心を思い、神からの宣教を託された教師、そして、神と共に生きた教師、信徒を覚えての礼拝は、あらためて、この教区に遣わされ、その教会に生きる者としての思いを深くさせられました。そのような中で、教団総会議員の選挙が行なわれました。教団にもさまざまな課題がありますが、お一人お一人の教区地区でのお働きや、信仰の祈りによって、教団総会の議場にありましても、よいご奉仕ができますようにと、送り出したいと思いました。教団問安使挨拶の中で、宗教改革500周年記念事業に触れた際、若者伝道のあり方を共有しました。従来の伝道集会型では限界があり、若者が直面する日常の中で、どのように繋がる場面を作り出せるかが重要であるかを気付かされました。多くの課題を皆さんと共にし、また、多くの恵みに感謝した教区総会でした。

群馬地区

桐生東部教会牧師　三浦　　啓

5月23から24日に大宮ソニックシティホールを会場に第68回関東教区総会が行われた。今回の総会では、1日目の夜の分科会を無くし、議事について取り扱う時間が多く確保された。このことによって、議事について皆で意見を出し合い、話し合うことが可能になる、そう思いながら総会に参加したが、実際にはそうはならず、非常に混乱を来した総会となった。

その混乱の原因とは、関東教区議長報告である。議長報告の中に、北本教会に招聘された教師について触れている文章があった。この事柄について議場から多くの質問や意見が出され、この事柄に関連して議案・報告書が総会の10日前に届かなかったことについても厳しい意見が出された。結果、総会1日目の夜に臨時常置委員会が行われ、総会2日目に、議長報告の中の北本教会の教師に関する一文が削除することが報告された。当該の教師、北本教会の信徒もいる中で議論が進められ、当該教師が謝罪する場面もあったが、総会中にどのような心境でいろいろな意見を聞いていたのかと思うと胸が痛む。

また、総会の中で、合同教会として様々な意見や立場、教派的背景が尊重される会議を目指すことを目的に、議案として「教団総会議員選挙に関する件」が出され、全数連記から半数連記の投票方式が提案されたが、否決された。全数連記の選挙方式の結果、今、関東教区の常置委員の中に群馬地区の教師、信徒は含まれていない。今回の総会で常置委員に付託される議案や事柄が多くあったが、群馬地区抜きの常置委員で大切な事柄が決定されていく教区形成に疑問を感じた。

栃木地区

益子教会信徒　大下（おおしも）　陽子

この度、第68回関東教区総会に夫と共に参加させて頂きました。折しも栃木地区が設置委員に当たり、私たちも委員として、この総会準備に関わりました。私にとって初めての参加でしたが、単

に用意された総会に参加するよりも、事前の会場下見、前日からの準備、当日の受付等と、裏方として総会により深く関わることが出来てよかったです。総会の円滑な運営の為に様々な労苦がなされていることを感じました。

また教区の牧師先生方や他教会の信徒、教区事務所の方々と交わりも深める事が出来ました。総会が無事に終了したことを神様に感謝しております。

私は関東教区に入って間もない為、知らないことばかりでしたが、この総会を通して教区の様々な働きを知る機会ともなりました。これからは自分の属する教会、地区だけでなく、関東教区全体が神の国として広がっていくことを切に祈っていきたいと思います。

茨城地区

筑波学園教会信徒　玉井　幸治

関東教区総会で強く印象に残ったのは、按手礼と学習会でした。

按手礼を受けるために壇上中央に跪く坂口慶行先生を中心にして、壇上を埋め尽くした100名超であろう正教師の方々が連なる様に、厳かさを強く感じました。また教師の皆様が按手礼をとても大切に思っていることも感じました。

“とめよう戦争への道！”と題する学習会では、西川重則氏から、「日本国憲法を習熟する重要性」と「歴史を学び、戦時の反省を行う重要性」を学びました。私自身は戦争を回避できなかった理由を知りたくて、「官僚制としての日本陸軍（北岡伸一著）」などを読んだりし、歴史の方は若干詳しいと自負していました。しかし日本国憲法についてはトンと関心を持っていませんでした。西川重則氏の著作「わたしたちの憲法　前文から第103条まで」（いのちのことば社、定価1千円）で勉強しようと思います。アマゾンで中古本を購入しました。既に絶版となっているためか、新品本には1万円以上の値がついていました。

埼玉地区

初雁教会牧師　町田さとみ

今年度の関東教区総会は、漢字2文字で表すと「激論」でしょうか。なので、この度の原稿のお題目を前に、「私に何が書けようか…」と躊躇しました。けれども、原稿依頼の「関東教区の主にある交わりのために、ご協力を」との一文に押し出されました。

仮執行順序によれば、「教団総会議員選挙」が行われ、「教区議長報告」「各活動報告」「会計報告と予算」などと続く。「教団総会議員選挙」では、半数連記投票が提案され、賛否が議論。そして激論に。「教区議長報告」でも様々な意見が出され、議論。そして激論に。これら2つの議論と学習会とで、1日目が終わりました。無事に2日で終わるのだろうか…と不安を覚えながらの2日目。他の議題や、教団問安師のご挨拶。総会終了間際は、議論も駆け足状態でした。

今回の教区総会は、様々な意見が出され、激論が交わされました。この激論が、互いの違いを覚え、対話し、受け止め合い、教区が一つとなる為の“過程”であると願い、祈ります。

祝 准允

狭山教会伝道師　大久保一秋（おおくぼかずあき）

神さまが狭山教会に招いて下さったことを、私は、心から喜んでおります。

伝道の喜びとは、「伝える者の喜び」にとどまらないのではないでしょうか。それは、「伝えられた者」の喜びでもあります。そして、伝えられた者の喜びを、今度は私が再び受け取り直します。

私に初めて福音を伝えて下さった飯能教会は、その70年の歴史の中で初めての教師だと言って、とても喜んで下さいました。この大きな励みを携え、慣れ親しんだ教会を離れ、狭山教会に赴任いたしました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

菖蒲教会伝道師　佐藤（さとう）　繁（しげる）

私は准允式に臨む寸前、魂の状態を示され「このままでは大勢の先生と、信徒代表の方々を欺く者ではないか」と悲しくなった時、19歳の時、救いと同時に与えられた「我に従へ」との御言葉によって不安がなくなり「これで大丈夫」と思い、東野先生による誓約とお祈りを頂き、式を終え感謝しました。この時、神様はこの式に与えられた恵みによって長い間持っていた教団に対する強い偏見と、人目を気にする心の弱さから解放して下さいました。感謝です。今は微力ながらイエス・キリストによる救いの福音宣教と、菖蒲教会の成長を願っています。御祈り下されば感謝です。

大宮教会伝道師　高橋（たかはし）　真之（さねゆき）

初めまして、この度教区総会にて准允を受けました、大宮教会伝道師の高橋真之です。

准允を受け、ますます伝道者としての自覚と、伝道への熱意が増し加わっていくのを感じています。とはいえ、まだまだ伝道者としては駆け出しなので、右も左もよく分からないというのが、正直な思いです。

このように自らの無力さを思い知らされる毎日でありますけれども、教区の先生方、大宮教会の兄弟姉妹との祈りの交わりの中で、多くのことを学び、謙虚な心を忘れずに、主に仕えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

東中通教会伝道師　平向（ひらむき）　倫明（みちあき）

5月の関東教区総会で准允を賜り、伝道することが公に許されることとなりました。「公に許される」とは、責任が生じることでありますから、従来にも増して聖書と神学の研鑽を積まねばならぬと、自分自身に鞭打つ次第であります。しかしながら、説教を語るのは、個人の“私”ではなく御神であります。聖霊なる御神が、この僕（しもべ）を「御言（みことば）を語る為の器」として用

いて下さると信じるのであります。何よりも、聖書黙想による聖霊との対話を欠くべからざる大切な恵みとして、霊の養いを受けながら「神の言」を伝える者になりたいと願います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

下館教会伝道師　山野（やまの）　心（しん）

私は、山口県の山口教会牧師館で産まれ、埼玉和光教会、日立教会、久喜復活伝道所、聖学院教会、上尾使徒教会、北本教会、埼玉新生教会と、関東教区では多くの教会のみなさまと共に礼拝し、交わりのときを持たせていただきました。今回、関東教区に於いて准允を授けられ、慣れ親しんだ茨城の地で伝道を行うことができますことを、心から喜んでいます。下館教会では、こども園や学童施設でのキリスト教教育にも用いられていることを喜んでいます。求めなさい、そうすれば与えられる（ルカ11：9)。主の用いられるままに、伝道の働きに仕えていけることを願っています。

所沢武蔵野教会伝道師　渡邊（わたなべ）　典子（のりこ）

4月から埼玉県の所沢武蔵野教会に赴任しました。育てられた教会で信徒から教師へ立場が移りましたから、自覚をしないと忘れそうでしたが、先日の「准允」での宣言により改めて伝道師とされたことを確信でき、緊張感と共に喜びを抱いています。個人的事情のため時間的物理的制限がありますが、「福音を宣べ伝えなさい」という召命はむしろ一層強められ、私自身が自分を越えた力に運ばれていることを感じます。その力こそ主の復活の命であり救いの福音です。主の恵みを無駄にせず、福音を民に宣べ伝える使命を果たすべく、主を愛し主に仕え、教会を愛し教会に仕えてまいります。

祝　按　手

水戸自由ヶ丘教会牧師　坂口（さかぐち）　慶行（よしゆき）

5月23日、日本基督教団第68回関東教区総会に於いて、按手礼を授けて頂きました。水戸自由ヶ丘教会牧師・坂口慶行です。

先ず、聖書を学ぶ、学び続ける事で、聖書を日々深く味わいつつ過ごして参りました。学んだ御言葉を語る喜びを与えられました。今度は、洗礼・聖餐式を執行する事を許されました。どのような喜びが与えられるか、今からワクワクしています。

私達の水戸自由ヶ丘教会の現住陪餐会員の半分が、現在御自分の身体、あるいは連れ合いの介護の為、主日礼拝に与れていません。この教会員を訪問して、訪問聖餐を祈り、役員会で話し合われています。

着任してひとこと

新津教会牧師　柏田（かしわだ）　政治（まさはる）

この度、新津教会に赴任しました柏田政治と申します。どうぞ、よろしくお願いします。私が最初に遣わされたのが奥羽教区、次に北海教区、九州教区で主の教会に仕えて参りました。実に北は北海道から南は九州の教会に仕え、今回はその真ん中の新潟の新津教会に遣わされました。主のお導きを心から感謝しています。

これから様々なことがあるかと思いますが、自分一人で頑張っていくのではなく、新津教会員の皆さんとコミュニケーションを密にしながら、主のご委託に応えていきたいと願っています。少しずつ教会の歴史、地域の課題等を学び始めているところです。

沼田教会牧師　押川（おしかわ）　幸男（さちお）

今年4月、沼田教会に赴任しました、押川幸男と申します。

神学校を出て、最初の赴任地が関東教区で、最後（？）の任地も関東教区です。

「初め良し、終わり良し、全て良し」と願っています。前任地は東京教区でした。地方の教会は、何事もお互い協力しなければ生きていけない現状がありますが、そのことをどのように捉えるか。私は積極的な意味があると思っています。

沼田教会には認定こども園恵泉幼稚園があります。幼稚園に30年近く関わり、今は認定こども園の可能性に興味を持っています。様々な課題に取り組む同志との出会いを期待しています。

見附教会牧師　矢吹（やぶき）　一夫（かずお）

着任して、感じたのは教会の建つ町の「空の広さ」と礼拝後、お茶を飲みつつ歓談する際の「時の流れ」の緩やかさである。

先日来、牧師館の横に前任の柳田雅江先生が育てられたグリーンアスパラが大きくなり、食卓に彩りを添えるようになった。

山口信愛教会に主任担任教師として赴任して以来25年ぶりの地方教会である。東京の教会（本所（ほんじょ）緑星（りょくせい）教会、阿佐谷東（あさがやひがし）教会）での伝道・牧会の経験を活かしつつ教区の諸教会との主にある交わりを大切に歩んでゆきたいと願っている。（家族は妻と二男一女）

太田八幡教会牧師　矢吹（やぶき）　大吾（だいご）

1983年山口市生。山口信愛教会で幼少期を過ごし、1993年阿佐谷東教会へ。1999年受洗（クリスマス礼拝）。礼拝生活や西東京教区教育部高校生会の交わりの中で伝道への召しを確信、献身。2003年より京都で6年間学びと訓練のときを過ごす。この間、上鳥羽・本所緑星・水口（みなぐち）各教会の交わりに身を置く。2009年より神戸教会伝道師を2年務め、受允（兵庫教区）。2011年4月望月麻生牧師と共に四街道教会へ。7年間伝道・牧会に従事。2011年12月、受按（東京教区千葉支区）。「神の栄光のため、人の救いのため」、教会のかしらなる主イエス・キリストに倣い、伝道・牧会に励みたい。

島村教会牧師　清水（しみず）　信浩（のぶひろ）

今年度、栃木地区の那須塩原伝道所から、群馬地区島村教会へと転任となりました。教区内の異動ではありますが、群馬地区の教会での奉仕ははじめての経験です。新鮮な気持ちで一から始めたいと思います。地区内の教会、また教会員の皆さんにはご迷惑を掛けることも多くあるかと思いますが、よろしくお願いします。

島村教会は群馬と埼玉の県境にあり、教会員も島村だけでなく本庄や深谷から多くの方が礼拝に集われています。また、付帯施設の島村めぐみ保育園も同じように、埼玉と群馬の子どもたちが集まって来ています。また、周囲には畑や田んぼが広がり純粋な農村風景が広がっているこの地域も変貌しつつあります。その中で、変わることの無い主の福音を伝え続ける教会としてあり続けるよう、祈り求めていきたいと思います。

吾妻教会牧師　稲垣（いながき）　真実（まこと）

4月より吾妻教会（群馬地区）に着任いたしました。景勝地として名高い吾妻の地が、四季折々にどのような表情を見せてくれるのかと楽しみです。吾妻峡の山々、吾妻川の流れ、そして温泉に癒されつつ、喜びの中を歩み出しております。

吾妻教会は今年で創立129年。来年5月には創立130年を迎えます。過去の資料を紐解きつつその歩みを学んでおりますが、地区の諸教会、教区の支えが大きなものであったことを感じております。互いに支え合い、互いに仕え合う群れの一人に加えられたことに感謝です。どうぞよろしくお願いいたします。

足利教会牧師　望月（もちづき）　麻生（あさを）

足利教会という新しい任地がはっきり示されたのは、昨年の真夏でした。居間のテレビには桐生や前橋で記録された高い気温が、数字ではっきりと映し出されていました。足利もたしかこの辺りだったな、果たしてかの地でやっていけるだろうか……暑いのが大の苦手な私は不安になったものでした。初めて住む栃木、初めて経験する幼稚園の園長。緊張こそすれ、神様がくださったたくさんの出会いと恵みの中で生かされていることを日々実感します。たくさん働くのはもちろん、美しい自然や文化の中でたくさん遊んで、遣わされた地により良く親しめたらと願っています。

那須塩原伝道所牧師　若林（わかばやし）　俊郎（としろう）

2000年に入り、18年がたちます。2000年を迎えてからというもの、語呂合わせで何「に専念」すべきか問われてまいりました。不覚にも60歳を迎えての関東教区入り。若い頃のように、あれにもこれにも専念というわけにはゆきません。やはり福音宣教、教会形成にしぼられております。とは言え、今なお週報は手書き。不器用に加え、これといって何の取り柄もない私です。なぜかあのナマケモノという動物が好きで、親近感を覚えます。良くも悪くも変わり者です。こんな私でも、神と那須塩原伝道所の皆さんに用いていただけるのなら、それだけで十分です。

諸川伝道所牧師　井上（いのうえ）　理（おさむ）

関東教区で准允を受け、按手礼を受け、その後、中部教区、西中国教区、大阪教区を経て20年ぶりに帰ってきました。

2017年3月隠退しましたが、復帰をしました。今までは、中規模の教会ばかりでしたが、諸川伝道所は、60年以上の歴史がありますが、現住陪餐会員4名、礼拝出席者5～6名の小さな伝道所です。

主の導きと信じて赴任しましたが、非力な者です。神様に仕え、地域に伝道が出来ればと思っております。皆様方のお祈りとご協力をよろしくお願い致します。

久美愛教会牧師　鈴木（すずき）　佳子（よしこ）

東京で受允、受按し、東海教区で18年、牧師として養われました。久しぶりに都会に戻って来ました。設立91年目を迎える久美愛教会は、新会堂・牧師館建築を終え、久しぶりの常駐の牧師として、就任いたします。新しい信仰の冒険に乗り出した教会員と共に、この舟に乗り込みました。

人間的な目で眺めるなら、私自身は無力でありますが、舟の舳先には眠るほどに乗組員を信頼なさる船首が乗り込んでおられます。神のご計画と信じ、この働き託してくださる祈りに執成されつつ、用いられたく思います。教区の交わりにお支えいただけますよう、お願い申し上げます。

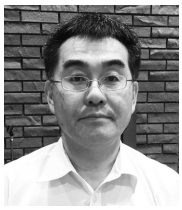
聖学院教会牧師　東野（ひがしの）ひかり

高校卒業まで、埼玉県本庄市で育ちました。高校卒業とともに東京神学大学に入学。結婚後は、横浜、鎌倉で伝道師、副牧師として務めさせていただきました。2008年夏に体調を崩し、2009年3月末をもって14年間過ごしました鎌倉雪ノ下教会を辞し、2009年4月より療養に入り、以来夫の赴任地である聖学院教会に出席してまいりました。このたび、聖学院教会担任教師（副牧師）として教会の務めに復帰させていただくことになりました。未だ体調万全とは言えませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

東京聖書学校教務教師
東京聖書学校吉川教会牧師　原田（はらだ）のぞみ

昨春に東京聖書学校吉川教会の担任教師として赴任し、今春、連れ合いである原田彰久教師が、宮崎清水町教会より当教会に赴任し、昨年度の5人教職体制から2人教職体制となりました。この度の人事で、東京聖書学校教務教師兼務主任担任という立場になりました。共同牧会の形を大切にし、互いの賜物の違いを生かし教会と神学校に仕えていきたく願っています。また、教区の事にも関心をもって、共に祈り、支えることを通じて、主にある「連帯」の豊かさを覚える教会、神学校とさせていただければ感謝です。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

東京聖書学校教務教師
東京聖書学校吉川教会牧師　原田（はらだ）　彰久（あきひさ）



4月から東京聖書学校教務教師、東京聖書学校吉川教会担任教師としてまいりました。日本基督教団のホーリネスの群の教会で洗礼を受け、青年期を福音派の教会で過ごし、ファンダメンタルな（基本を重んじる伝統的な福音理解に立った）信仰を大切にしています。

また東京神学大学で教会形成の重要性を学び、

卒業後は九州教区で約20年、様々な立場の方に出会い、歩みを共にすることが出来て感謝でした。

これから受洗者の陪餐、信仰告白と教憲教規による一致、豊かな証しを大切にする伝道者教育と伝道牧会を心掛けたいと願っています。よろしくお願いいたします。

愛泉教会牧師　深井（ふかい）　智朗（ともあき）

愛泉教会に着任しました。隣設の愛の泉の理事に就任して以来、教会との交わりも続けてきましたが、今年からは教会の責任も森田弘道先生と共に担うことになりました。

私と関東教区との接点は3つあります。38年前に埼玉の埼大通り教会で洗礼を受けました。また牧師となり、教務教師としてではありませんでしたが、16年間埼玉にある聖学院大学に勤めておりました。そして既に書きました愛の泉との関係で、なつかしい故郷に戻ってきたような思いでおります。

東京の学校での職務と兼務となりますが、どうぞご指導とお交わりをいただきますようにお願い申し上げます。

敬和学園高校教務教師（校長）　中塚（なかつか）　詠子（えいこ）

キリスト教学校を取り巻く現実は日々厳しさを増しています。税金から補助金をいただいておりその金額は授業料収入を上回っていいます。生徒の多くは就学支援金を受けています。それでも経済的に大変な家庭が多く、様々な形で奨学金を必要としています。

義務教育課程で道徳が教科化されました。次のカリキュラム改定では高校にも同様のことが求められるでしょう。公立学校では「君が代」「日の丸」が徹底されています。

私は時代の生きづらさと危うさを感じています。その中で命と存在を大切にし、一人ひとりを尊ぶキリスト教教育を貫くのが課題です。

聖学院キリスト教センター教務教師　久保（くぼ）　哲哉（てつや）

4月より学校法人聖学院キリスト教センター主事として着任しました。久保哲哉と申します。1983年に東京で生まれ、青山学院大学、東京神学大学を卒業後、世田谷区の経堂北教会伝道師・鴎友学園の聖書科非常勤講師として3年を過ごし、札幌の麻生（あさぶ）教会・麻生明星幼稚園の牧師・園長を5年務めました。教会の牧会を離れ、小中高と12年間学んだ愛する母校で教務教師として仕えさせていただいていることに主の不思議な導きを感じています。教会と学校を結ぶパイプ役が使命です。教会の牧会から離れていますので、説教応援や伝道集会にどうぞお用いください。

（カット・今橋　朗）

第68回関東教区総会と第１回常置委員会報告

教区書記　小池　正造

第68回関東教区総会は、2018年5月23日（水）～24日（木）の日程で、大宮ソニックシティ小ホールを会場として開催されました。

今総会において、議案書の送付が遅れてしまい、ご迷惑をおかけしたことを謝罪いたします。

○第１日目　5月23日（水）

関東教区総会は、主イエス・キリストの神を礼拝する事から始めます。共に主を讃美し信仰告白をする事により、聖書の御言葉を取り次ぐ説教者の石川栄一師（佐野教会）を通して神の御言葉に与り、聖餐の恵みを分かち合い、献身の心を持って献金をささげました。

礼拝後は、組織会を経て総会特別委員の選任がなされました。仮執行順序について動議が出されましたが、原案通り執行順序・議事日程が承認されました。今総会は、新たな試みとして、今まで行っていた分科会を取りやめ、全体協議において議事を進めることといたしました。按手礼・准允式の執行議案は決議され、第68回教区総会中に教団総会議員選挙の開票事務局設置が承認されました。その後、昼食休憩までの時間、在日大韓基督教会、教団出版局からの来賓者紹介と、ご挨拶がありました。午後の議事に先立って按手礼式・准允式の執行がなされました。受按者・受允者につきましては、教区通信の今号掲載記事を参照ください。また、関東教区に在籍され25年間仕えられた教師、三羽敦子師（和戸教会）と昨年度末で隠退された教師、清水義彦師（桐生教会）、石神稔師（西上尾教会）、柳田雅江師（見附教会）、指方周一師（吾妻教会）、川真田正師（下館教会）、森淑子師（狭山教会）、飯野敏明師（太田八幡教会）、西海満希子師（東京聖書学校）の紹介があり、出席された森師、西海師が挨拶され教区議長が謝辞を述べました。そして、今春より関東教区に着任された教師の紹介がありました（今号掲載記事を参照ください）。

議事に先立ち議運からの提案により、第1回目の教団総会議員選挙が行われました。この選挙に先立ち「全数投票ではなく半数投票で行う」議員提案がありましたが、採決により賛成少数で、通常通り全数選挙で投票が行われました。その後、関係学校報告をうけました。

午後5時より「とめよう戦争への道！「平和を創り出す」ために、日本国憲法を習熟しよう」と題し西川重則氏より学びの時を持ちました。

議案報告書の到着の遅れについて副議長が経過を説明し質疑がなされました。議長報告を巡って多くの意見交換がなされました。議事が紛糾したため、1日目の議事終了後に臨時常置委員会を開催することとなりました。

○第２日目　5月24日（木）

教区総会2日目の最初は、逝去者追悼祈祷から始まり、昨年度逝去された信徒と教師のことを覚えました。

雲然俊美（くもしかりとしみ）教団書記より、教団間安使挨拶を受けました。現在教団は財政状況の悪化もあり、機構改革に取り組んでいることが説明されました。

議長報告は、前日の臨時常置委員会での文言修正が報告され、修正された議長報告が承認されました。時間がなくなる中、その他の報告事項について各号ごとに一括上程され承認されました。議案について、議案7号～10号、12号、13号、18号、19号について可決されました。11号、14号～17号については、常置委員会付託となりました。

最後は、福島純雄副議長の聖書朗読と祈りがささげられ、第68回教区総会を終了しました。最後になりますが、この場をお借りして設営担当の栃木地区の皆様、総会事務局、集開票委員、その他のご奉仕者の皆様に心より感謝を申し上げます。なお、第69回教区総会は、同じく大宮ソニックシティ小ホールを会場に、2019年5月30～31日の日程で開催する予定です。

執行順序変更についてのご意見をお聞かせください。次年度以降の参考とさせていただきます。

○教団総会議員選挙結果

教職議員

1　熊江　秀一（埼玉・大宮）
2　福島　純雄（茨城・筑波学園）
3　小池　正造（新潟・東新潟）
4　栗原　　清（埼玉・武蔵豊岡）
5　東野　尚志（埼玉・聖学院）
6　木村　太郎（栃木・宇都宮）
7　田中かおる（埼玉・安行）
8　村田　　元（群馬・群馬町）
9　佐野　明子（栃木・塩谷一粒）
10　疋田國磨呂（埼玉・本庄）
11　石橋　秀雄（埼玉・越谷）
12　島田　　進（茨城・日立）
13　飯塚　拓也（茨城・竜ヶ崎）
14　小林　　眞（埼玉・岩槻）

信徒議員

1　半田香代子（群馬・原市）
2　菊地　　愛（新潟・東中通）

3　金剌　英雄（埼玉・上尾合同）
4　豊川　昭夫（埼玉・越谷）
5　國吉常喜與（栃木・宇都宮上町）
6　佐久間文雄（埼玉・志木）
7　大熊　眞弓（埼玉・東京聖書学校吉川）
7　高崎　道子（栃木・鹿沼）
9　勝野　奉幸（埼玉・大宮）
10　山川　秀人（埼玉・聖学院）
11　中松　聖美（埼玉・武蔵豊岡）
12　滝川　英子（埼玉・七里）
13　富永　研司（茨城・日立）
14　玉井　幸治（茨城・筑波学園）

○第68総会期第1回常置委員会（6月12日大宮教会開催）

・秋季教師検定試験受験志願者の推薦について、「正教師試験受験志願者」澤田石秀晴師（浦和別所教会主任担任教師）、の推薦を承認しました。また、「教師検定試験規則10条による受験」へ阿部洋治師（北本教会）の推薦を承認しました。
・教区総会の振り返りを行いました。議案書作成については、第5回常置委員会終了後翌火曜日とし、その時点で集まっていない原稿は差し替えとすることを確認しました。投票・採決における議員数確定を明確化するために、正議員と准議員の名札台紙の明確な色分け、座席の分離をすることといたしました。
・教区総会において、常置委員会付託となった議案について、「ナルドの壺献金」推進に関する件、「会堂・牧師館建設緊急貸出基金」献金推進に関する件、「教育費互助基金」献金推進に関する件　「2018年度教団部落解放センター活動献金」推進に関する件について審議し可決しました。関東教区諸委員会の整理・統廃合及び常設委員会と特設委員会との種別の変更ならびに委員会名を改称に関する件については継続審議としました。
・教会記録未提出教会について、各地区長に委ねる事を承認しました。未提出、未審査の教会・伝道所は、各地区長へお問い合わせください。
・「宣教綜合協議会」開催について、宣教部よりの提案を承認しました。日時：7月16日（月）10時～15時半、会場：大宮教会
・教団問題協議会について、日時：2018年9月25日（土）、会場：大宮教会、主題「教団機構改革（仮）」、講師佐々木美知夫教団副議長で行うこととなりました。
・向山荘に関して、今後の扱いについて意見交換をしました。
・2018年度教区活動計画を承認しました。
・各種申請に関する件（敬称略）

（1）教会担任教師異動（4月末教団同意済みのもの）

桐生教会	辞	清水　義彦（主・正）
	就	村田　　元（代主・正）
西上尾教会	辞	石神　　稔（主・正）
足利教会	辞	荒谷　　出（代主・宣）
	就	望月　麻生（主・正）
諸川伝道所	辞	福島　純雄（代主・正）
	就	井上　　理（主・正）
下館教会	辞	川真　田正（主・正）
狭山教会	辞	森　　淑子（主・正）
太田八幡教会	辞	飯野　敏明（代主・正）
	就	矢吹　大吾（主・正）
羽生の森教会	辞	田村　信征（担・正）
	辞	福島　　真（担・補）
	辞	高橋　和彦（担・補）
東京聖書学校吉川教会	辞	深谷　春男（主・正）
	辞	深谷美歌子（担・正）
	辞	湯目　瑞枝（担・補）
	辞	佐々木羊子（担・補）
	就	原田のぞみ（兼主・正）
	就	原田　彰久（兼担・正）
沼田教会	辞	小岩　　輝（主・正）
	就	押川　幸男（主・正）
新津教会	辞	小淵　康而（代主・正）
	就	柏田　政治（主・正）
上尾合同教会	辞	秋山　　徹（主・正）
	就	木村　太郎（代主・正）
島村教会	辞	佐藤　謙吉（主・正）
	就	清水　信浩（主・正）
那須塩原伝道所	辞	清水　信浩（主・正）
	就	若林　俊郎（主・正）
吾妻教会	辞	指方　周一（代主・正）
	就	稲垣　真実（主・正）

（2）巡回教師･神学教師･教務教師異動

聖学院キリスト教センター	就	久保　哲哉（教・正）
敬和学園高等学校	辞	小西二巳夫（教・正）
東京聖書学校	就	原田　彰久（教・正）
新島学園短期大学	辞	山下　智子（教・正）
	就	山本　有紀（教・正）
教区巡回教師	就	遠藤　公義（巡・正）

（3）宣教師人事

アジア学院（宣教師派遣願）
ケイトリン・オークイン（ブレズレン教会）

（4）各種申請・届

（1）宗教法人法 第23条申請
佐渡教会（境内地購入）
（2）宗教法人規則・教会規則
前橋教会　宗教法人規則変更
埼玉新生教会　教会規則制定
中条教会　教会規則制定

教区事務所だより

主事　金刺　裕美

第68回教区総会は、栃木地区の教師と信徒の方々が設営委員として、また多くの議員の皆様に総会特別委員としてご奉仕いただき、無事終了することができました。お働きを心より感謝申し上げます。

◎「教区一覧」（名簿）をお届けいたします。

各教会・伝道所・学校・関係団体へ送付いたします。教師の異動をはじめ、住所や電話・FAXの記載があります。巻末には2018年度の教区活動予定表、各種献金の送金先も記載されています。どうぞ、ご活用ください。なお、個人情報保護の関係で、名簿の取り扱いは十分に気を付けてくださいますようお願い致します。また、追加・変更・訂正等お気づきの点がございましたら教区事務所へご連絡下さい。

◎教区公式ホームページをご活用ください。

URL　http://uccjkanto.holy.jp

教区内教会・伝道所の紹介、教区関連の集会案内・報告等が、担当者の迅速な対応によりタイムリーにご覧いただけます。写真の掲載もありますのでようすがよく分かります。特に、教団・教区への各種申請書が必要な場合、様式をダウンロードし、パソコン上で作成もでき便利ですから、ぜひご利用ください。

◎教区事務所の夏期休暇について

8月9・10日（木・金）、14（火）～17日（金）

※その他、土・日・月は通常通り休業です。

休暇中、なにかとご不便をおかけいたしますが、どうぞご了承ください。

※緊急連絡先　小池正造教区書記

025－247－0058F（東新潟教会牧師館）

携帯　090－1404－9179

社会保険事務だより

保険事務　金刺　裕美

早々と梅雨明けとなり、厳しい暑さの夏がやってきています。夏の間、さまざまな行事が計画されていることと思いますが、体調管理に十分気を付けてお過ごしください。

◎算定基礎届けが終了しました。

7月初めに4・5・6月分の謝儀額を年金事務所に届出します。この算定基礎届により、今年9月から来年8月分までの保険等級が決定されます。謝儀額で2等級以上の変化がある方は7月分から、1等級の変化の方は9月分から保険料が変更になります。該当される方へは、7月中に事務所より変更通知を送付いたします。通知が届かなかった方は、従前通りです。

◎夏季賞与社会保険料算出方法について。

①支給額の内、千円未満の額を切り捨てます。これを「標準賞与額」と言います。

②標準賞与額に各料率を掛けて、保険料の算出をします。（小数点以下4捨5入）

年齢／項目	40未満	40以上65未満	65以上70未満	70以上
健保	9.85%	9.85%	9.85%	9.85%
介護		1.57%		
厚生	18.3%	18.3%	18.3%	
児童	0.29%	0.29%	0.29%	

※賞与保険料の納入は、8月末までに。

◎厚生年金保険の改定はありません。

2018年より、9月改定は無くなりました。

◎生活習慣病予防健診、受診手続き。

『医療機関で受診日を予約→教区事務所に連絡→けんぽ協会に申込み』という流れです。けんぽ協会を通さな場合、受診料が全額自費負担となることもありますので、予約が取れたらすぐにお申込み下さい。

編 / 集 / 後 / 記

最近この世で批判を浴びる発言は、話しかける相手の人格を考えずに発言していることで、批判を浴びていると思います。人と人との関係は、人格的（私とあなた）関係であるべきなのに、あたかも人と何か（私と物）になったり、独り言で話してしまうことが、問題の原因ではないでしょうか。イエスさまは、人格的な関係（愛の関係）を、神さまと人との間に取り戻すことに力を注がれました。関東教区通信に掲載される原稿も、毎週教会で語られる説教も、不特定多数の人に語るのではなく、一人一人に語りかける言葉として、大切にしていきたいと思います。（森田泰司）

日本基督教団関東教区宣教部委員会

宣教部だより

No.84　　2018年7月29日

日本基督教団 関東教区宣教部委員会
委員長　飯塚拓也
301-0843　龍ヶ崎市羽原町1366-5
Tel. 0297（64）3768
http://uccjkanto.holy.jp

伝道はみんなでするものじゃないかな

宣教部委員長　飯塚　拓也（竜ヶ崎教会）

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。
（マタイによる福音書 18 章 20 節）

茨城県の県南、利根川をはさんで向こうは千葉県佐倉市という地域は「稲敷」と呼ばれるところです。その名のごとく、関東ローム層の豊かな土壌と、温暖な気候の中で、稲作を初め農業の盛んな地域です。2000年に、この稲敷に小池与之祐牧師が移住され家庭での礼拝が始まり、神さまの導きの中で育まれ、2009年の教区総会で「神の愛キリスト伝道所」として設立しました。竜ケ崎教会は、関係教会となりました。実は、稲敷伝道は長い間の祈りで、過去に何度か開拓伝道が試みられましたが進展にはいたりませんでした。その中で、「小池牧師が稲敷の定住者となった」ことが、伝道の大きな推進力となりました。「よそ者」ではなく「そこに暮らす者」となることが大きかったのです。日曜日の礼拝の時間だけ行くのではなく、日常の地域との関係が深まることによって、伝道は根付いていくのだと教えられました。そして、関東教区が長い間をかけて取り組み、育んできた「ナルドの壺献金」は、まさにこのためにあるのだと思いをはせています。

さて、神の愛キリスト伝道所は2016年10月に新会堂が与えられました。小池牧師の自宅での礼拝から、十字架を掲げた建物での礼拝と進みました。この会堂を通していかに伝道を進めていくかを求める中で、「稲敷開拓伝道礼拝」を始めることとなりました。具体的には、毎月1回、第4主日の午後2時30分から、みんなで集まり礼拝をし、その前後の時間には環境整備をします。こうして、月に一回であっても、教会に人々が集まり、駐車場には車が止まり、讃美歌が聞こえてくることによって、地域への証しができるのではと考えました。地域の方々は、教会の様子をたえず見ていると思います。すぐには礼拝出席に結びつかないかもしれませんが、教会の息づかいを響かせることによって、教会への関心を深めてもらいたいと願っています。また、少人数の礼拝が続く中で、小池牧師や教会員を励ます意味でも、共に礼拝を守るということは大切なことと考えます。これからも、近隣教会に呼び掛けて、「稲敷開拓伝道礼拝」を重ねていきたいと願っています。

宣教部だより前号83号にも記しましたが、教会のおかれている情況は、厳しさを増しています。教会員、礼拝出席者、教会会計の減少は、私たちを悩ませます。新潟地区では、代務や兼務の教会があり、一人の牧師が複数の教会を牧する現実に直面しています。あるいは、他の地区でも今まで行っていた活動が、教会単独ではできにくくなった現実もあります。しかし、だからといって伝道が停滞しているのかというとそれはありません。むしろ、そのような厳しさを前にしても、熱い祈りが途絶えることはないし、宣教のビジョンがすたれることはありません。それは、そこに「共に伝道を担おうとする仲間」がいるからです。伝道は、決して一人でするものではありません。「祈りを共にしつつ、課題を共に担うこと」が伝道なのです。

この「共に」には、「牧師と信徒が共に」があるでしょう。「信徒と信徒が共に」もあります。さらに、「教会と教会が共に」へと広がっていくでしょう。また、「共に」を現実のものとするためには、エネルギーも必要です。互いを理解し、共通の目標を確認することは容易なことではありません。でも、それでも「共に伝道を」に取り組みたいのです。これこそが、これからの厳しい時代を乗り越えていくキーワードなのですから。何より、共に祈る私たちには、「イエスが共にいてくださる」のですから。

報　告

2018 年度新任教師オリエンテーション

関東教区に期待します

久美愛教会　鈴木　佳子

「測り縄は麗しい地を示し　わたしは輝かしい嗣業を受けました。―詩編 16：6－」

他教区からの転任者に対しても手厚い配慮がなされている新任教師オリエンテーションに参加し、心から感謝しました。18 年東海教区におりましたので、関東教区内の教会の所在地を知り得る絶好のチャンスと思い車を走らせました。狭山の現実の課題に正面から取り組む教区の姿勢を見せて頂き、関東教区の基本姿勢を理解したように感じます。当事者意識を深く持ちつつ、差別からの解放を共に担っていこうとの教区の呼びかけを、強く受けとめました。人間存在の全体に関わる問題として、この課題を捉え、毎年、新任オリエンテーションが狭山で続けられている意味を考えさせられました。その呼びかけに応えていきたく思います。

関東教区「日本基督教団罪責告白」については、長い年月をかけて教区が取り組んできた成果であります分厚い冊子を頂き、圧倒される思いでした。沖縄との関わり等、課題はまだまだたくさん残されていると思いますが、関東教区に所属する教会に遣わされ、同期の新任の教師と共に、ここで相応しく、充分に、用いていただきたいとの思いを改めて持たせていただきました。

互助制度、ナルドの壺の実績も、教区が、同労者を歓迎し、協同してくださっていることを実感します。関東教区の牧師を、一人も孤立させない、孤独な闘いをさせない、との励ましを覚え、深く感謝します。

関東教区オリエンテーション参加の感想

大宮教会　高橋　真之

関東教区各地から新任教師が狭山教会に集い、共に礼拝を捧げ、祈り、学び、交わりの時を持てました恵みに感謝いたします。今回のオリエンテーションでは、関東教区が深く取り組んでいる 「狭山事件」「日本基督教団罪責告白」について、特に学ぶひと時が与えられました。

1 日目は、狭山事件についての学びでした。率直に申し上げて私は当初、なぜ教区オリエンテーションで部落問題、ひいては狭山事件について取り扱うのか疑問でありました。しかし、石川さんご夫婦のお話を聞き、この事件や部落問題に対してキリスト者が関わるということの意義を痛感させられました。私自身も、今回だけでこれらのことの関わりを終わりとするのではなく、何らかの形でキリスト者として関わりを持ち続けたいと考えております。

そして 2 日目は、日本基督教団罪責告白の学びでした。私自身は、この罪責告白に関して考える機会が今までありませんでしたので、この研修は良い学びの時となりました。なかなかこの告白は教会の中での位置づけが難しいところもあると思いますが、これを教会の中で告白することは大変重要であると考えます。ですので、これからもこの罪責告白に関して学びを深めていきたいと思います。

最後になりますが、このオリエンテーションの企画を担当してくださった、教区の諸先生方、信徒の皆さまに心より感謝いたします。そして、これからどうぞよろしくお願いいたします。

教区新任教師オリエンテーションに参加して

東中通教会　平向　倫明

2 日間のオリエンテーションに参加できました事を感謝いたします。今回、特に印象に残った事は、「狭山事件」に関して、石川一雄さんご本人から直接お話を伺えた事でした。石川さんが、お話の冒頭でおっしゃった、「神は、どうしてあの三人を放っておくのか」との一言が、私の心に深く残ったのです。その時の石川さんの込み上げて来る怒りを抑えた表情も忘れられませんでした。石川さんのおっしゃる「三人」がどなたなのかは私には分かりませんが、一つはっきりと分かった事は、石川さんの心に平安がないという事でした。石川さんのこれまでの経緯を知れば当然の事だと思えます。石川さんのお話を聞いた後で、私は、「この方と一緒に聖書を読みたい」、ふとそう思いました。石川さんのためにキリスト者として何が出来るかを考えると、この支援活動のゴールは何処なのだろうと思いました。日本基督教団としてのこの活動が石川さんの無罪を勝ち取る事だけで終わって良いのだろうか、この世で無罪を勝ち取ったとしても、石川さんが神に救われなければ、この活動が空しいものになってしまわないだろうかとも思いました。キリスト者としては、石川さんに、神の救いをも勝ち取って欲しいと願ってやまないのです。キリスト者として出来る事は、まず何よりも、真実が明らかにされるとともに、石川さんに信仰が与えられますようにと祈る事、そして、その「三人」の方々にも、神の救いが与えられますようにと、祈り続ける事なのではないかと示されました。

新任教師オリエンテーションに参加して

下館教会　山野　　心

関東教区が、どのようなことに関わり、どのような働きを担っているか、狭山事件、教区の機構、罪責告白について学ぶ時を持ちました。狭山事件に関しては、小雨の降る中ではありましたが、実際に事件に関係する土地を歩きました。この事件が果たして本当に正しく裁かれていたのかを、参加した一人一人が感じたのではないかと思います。また、関東教区の機構に関しては、関東教区の地理的特徴、教区の会計等、改めて所属する教区のことについて知る機会を与えていただきました。関東教区の人口住民が１７教区で最も多いことは、教会周辺の人口が非常に限られている地区、教会から見ると、恵まれた環境です。伝道の可能性を生かす責任を持つ教区であることを意識させられました。また、『罪責を告白する教会』を発行する教区、戦争責任を受け止める教区であることを印象付けられました。教区の働きと、歩んできた歴史、現状の働きを思い巡らす時となりました。

また、このオリエンテーションは教区教師の歓迎会を兼ねているのだなと感じました。同じ会社の部署に配属された者に「配置（派遣）された職場（教会）はどう？仕事（牧会）はたいへん？」と、教区の先輩として、教会に赴任した後輩の様子を見て、声をかける。そして、新人同志、今、取り組んでいる事柄について、気にかけていること、同じように思いめぐらしていることを話し、時に先輩に相談する。赴任した教会が、教区内の一つの教会としてある、ということを実感しました。

狭山事件の地元として

狭山教会　大久保　一秋

埼玉では、冤罪事件が多く発生しています。近年では「志木妻子放火殺人」（最高裁で一審無罪を破棄）、「熊谷市両親放火殺人」（最高裁で無罪判決）、「さいたま市強盗殺人」（無期懲役確定後に再審請求）、「さいたま市９歳男児ひき逃げ」（一審無罪を二審逆転有罪）などがあります。

冤罪が多発する理由は、「心証」による司法判断の仕組みにあります。日本では、裁判官や裁判員が「自白に信用性がある」と判断すれば、十分な証拠がなくとも有罪とされる可能性があります。また、警察が捜査で収集した証拠は、弁護士であっても簡単には見ることができません。さらに、「司法が間違えることはない」という前提のため、判決確定のあとの「再審」は非常に稀です。

しかし、「ヒューマン・エラー」を認めない司法文化は、すでに世界的潮流に合わなくなっています。アメリカの「イノセンス・プロジェクト」（DNA 鑑定による冤罪証明を無償で行う非営利組織）は、設立から 25 年で 358 名の DNA 鑑定を行ない、実に 20 名の死刑確定後の無実証明と 155 名の真犯人逮捕に至っています。この活動は、アメリカ社会に大きなインパクトを与え、「無実者保護法」（DNA 鑑定のための補助金制度、2004 年）が制定されました。

日本の司法においても、オープンで科学的かつ検証可能な司法制度の実現が司法や警察捜査に対する信頼性を回復し、国全体の利益をもたらすのではないでしょうか。

Injustice anywhere is a threat to JUSTICE everywhere.

―― Martin Luther King, Jr.

新任教師オリエンテーションを後ろから見ると

宣教部　書記　伊賀　　滋（太田八幡教会会員）

６月 18 日（月）～19 日（火）に、関東教区に新たに赴任された先生方へのオリエンテーションが狭山教会で開かれました。今年度の対象者は牧師・教務教師併せて 25 名でしたが、諸般の事情により参加者は 15 名。スタッフは東野尚志教区議長、飯塚拓也宣教部委員長の他に宣教部委員、教師部や、関東教区部落解放推進委員会の方々に加え狭山教会の大久保一秋先生（参加者の一人）と、森淑子隠退牧師の支援と賑やかな布陣でした。

オリエンテーションと自己紹介の後、関東教区が以前より高い関心と支援を申し出ている狭山事件の当事者である石川一雄さん・早智子さんご夫妻のお話を聞き、そして小雨降る中事件現場を巡るツアーに出掛け、関東教区部落解放推進委員会のメンバーの詳細な説明を受けて、警察や検察側の無理筋を感じさせられました。この日の最後に森先生と狭山教会婦人会の方々の手作りによる夕食を頂き、暫し懇談の時を持ちました。

２日目の朝の祈祷会は、自ら名乗り出た矢吹大吾牧師に導かれました。教区アワーでは福島純雄教区副議長が教区の機構・関心事と今後の方向について語り、本音の質疑応答となりました。続いて、「日本基督教団罪責告白」が村田元牧師によって、何故・どのような経緯で、との素朴な疑問に答える形で説明されましたので、理解が深まったと思われます。

大変密度の濃いオリエンテーションでした。

関東教区教会婦人会連合の活動

委員長　西谷美和子（大宮教会）

6月5日（火）～6日（水）にホテル小柳（新潟県湯田上温泉）で開催した第44回総会･修養会は、57教会･伝道所、226人の参加をみました。東野尚志教区総会議長はじめ多くの牧師と兄姉を神様が集めてくださり、恵みのうちに無事終了したことをご報告申し上げます。神様に、そして1年かけて準備してくださった新潟地区婦人部委員・準備委員の皆さまに感謝いたします。

総会は、上程した議案すべて可決承認されました。ありがとうございます。

連合アワーでは、全国教会婦人会連合（以下婦人会連合）の尾野明子主事（王子教会）はじめ委員の皆さまのご協力により、私たちと婦人会連合とのつながりがご理解いただけたのではないかと思います。

総会後の修養会では、下田尾治郎敬和学園宗教部長から、心温まるご講演を賜りました。主にある生きる希望を、ユーモアを交えつつ話してくださり、大いに笑い、時に涙する…幸せな2日間でした。下田尾ワールドに魅了された方も多かったのではないでしょうか。

いよいよ第25期後半がスタートしました。今期主題「キリストの愛に応え、福音の希望に生きる―ヨハネによる福音書を学びつつ―」を覚え、委員一同、各個教会･地区･教区の宣教に資するべく、祈り支え合い、キリストの愛に応えられますよう、皆さまのお祈りと諸集会へのご参加・ご協力を心よりお願いいたします。

今年度は、隔年で開催している教区主催の研修会がありません。と言うのも、10月15日（月）～16日（火）に婦人会連合正典研究委員会による「第16回全国正典として聖書を共に学ぶ会」が埼玉地区（大宮教会）で開かれるからです。秋に2つも大きな集会に参加していただくのはご負担にならないか？委員会で検討し、「聖書」への参加に集中することに。また、2019年6月7日（金）～8日（土）には、婦人会連合50周年全国集会（千葉県幕張メッセ）が開かれます。その関係で、教区では総会を同年6月28日（金）に開催。現在、記念グッズ販売中。売り上げは交通費の補助金に。ぜひお買い求めください。

来年の総会について具体的なことが決まり次第、皆さまにご案内いたします。忙しい皆さまにどうしたらご負担をかけず、しかし主にある交わり、そして恵みを分かち合えるかを考えます。どうか、これらの集会にご参加ください。今からお覚えくださいますよう、お願いいたします。

第40回関東教区開拓伝道協議会　報告

書記　竹内紹一郎（深谷西島教会）

第40回開伝協が埼玉地区の国際愛伝道所、久喜復活伝道所で6月25日～26日に開催されました。開会礼拝では、竹花基成委員長から、Ⅰコリント書3章5～9節より「成長させてくださるのは神様、私たちは神の畑」とのメッセージを頂き、開伝協が始まりました。

続いて許昌範国際愛伝道所牧師から、今までの開拓伝道についての講演がありました。伝道場所の確保に行き詰まり、祈って夢で示された「2階で光が差し込む建物」と同じ現在の伝道所が与えられ、国際愛伝道所を開設した経緯。御家族を中心に礼拝を始め教勢が伸びたのに、韓国カルト教会の信徒による伝道所分裂、支援体制構築時の混乱等があったこと。その中で主のお守りにより不思議と必要が満たされ現在に至る報告を受けました。

その後、参加教会・伝道所の現場報告が行われました。過去のしがらみに対して聖言の説教で立ち上がりつつある教会。週報をA4大判にし、教会歴史欄を作っている教会。長く教会を離れていたが不思議な導きで復帰できた信徒の証し。長年開伝協を支えられた隠退教師からの女性教師の視点の必要性の訴え。町興しに便乗し信徒の積極的奉仕に支えられたオープン・チャーチ伝道。借家でない伝道拠点なので信徒・教師が安心し、教勢が増えた伝道所。誘われ開伝協に初参加、現在学童に取り組んでいる教会。ナルド支援教会での奉仕に何回も導かれた牧師。転任して牧師を助ける多くの教会員との出会い。取得隣地の活用計画と来会児童対応をする教会。主を主語とする祈りの勧めと楽しい教会造りに取り組む教会等の報告がありました。その後、大宮駅近くの宿泊施設「おふろカフェ」に移って夕食と懇談になりました。

翌朝は、久喜復活伝道所に駆けつけ、早天祈祷会で森俶子牧師よりヨハネ福音書1章の御言葉を頂き、久喜復活伝道所の山野裕子牧師より、今までの伝道所の歩みを資料により語って頂きました。全体協議会では、「どんな枝が広がりつつあるのか、どんな実が実りつつあるのか」を主題として、参加者が2日間を振り返り、ヴィジョン、決断、外に出てゆくこと、携帯S（C）メールの活用術等が語られました。最後の閉会礼拝では竹内紹一郎委員が、Ⅰコリント書15章58節の御言葉により「節目までやり遂げる」ことの大切さを導かれました。次年度は群馬地区の教会の予定です。